

## 環境こだわり農産物認証制度における対象農作物の品目の追加について

### 1 追加する対象農作物

#### (1) 農作物名

- ① 温州みかん
- ② レモン

#### (2) 追加する理由

- 東近江地域の観光果樹生産者グループでは、販売戦略として環境こだわりに取り組んでいる。市町においても観光果樹園の生産・規模拡大や環境こだわり農産物の推進を農業基本計画等に位置付けて推進している。
- 現在の10月以降の端境期の集客対策として、新規品目として温州みかんとレモンの栽培を開始し、令和3年度に初収穫を迎えている。また、東近江地域では、令和4年度末にも普及の支援を得て植栽予定の農業者があるなど、地域でも生産面積の拡大に意欲的である。
- 消費者からの環境こだわり農産物への強い要望があることから、本格的な作付けが始まることを契機に、認証を得て付加価値を高め、他産地との差別化を図りたい意向がある。
- 農業技術振興センターにおいて、令和4～6年度に気候変動に対応した品目として、かんきつ類の生産安定技術の確立に取り組んでいるところであり、今後の面積の拡大が期待される。

### 2 対象農作物の追加案

#### (1) 温州みかん

区分	果樹	
農作物名	温州みかん	
作型名	—	
慣行基準	化学合成農薬（延べ使用成分数）	1 6
	化学肥料（窒素分量 kg/10a）	2 0
5割以下基準	化学合成農薬（延べ使用成分数）	8
	化学肥料（窒素分量 kg/10a）	1 0
主な県内産地	竜王町、高島市	
栽培期間の目安	収穫 11～1月	

(2) レモン

区分	果樹	
農作物名	レモン	
作型名	—	
慣行基準	化学合成農薬（延べ使用成分数）	16
	化学肥料（窒素成分量 kg/10a）	20
5割以下基準	化学合成農薬（延べ使用成分数）	8
	化学肥料（窒素成分量 kg/10a）	10
主な県内産地	竜王町	
栽培期間の目安	収穫 11～12月	

3 対象農作物の追加に係る慣行基準の根拠

(1) 温州みかん

① 農薬（成分数）

施用時期	種類	対象病虫害	使用成分数	うち 化学合成農薬
4～9月	除草剤	雑草	3	3
3月	殺虫剤	シャクトリムシ	1	1
3～6月	殺虫剤	カイガラムシ	3	0
5～8月	殺菌剤	黒点病	4	4
5～6月(開花期)	殺菌剤	灰色かび病	1	1
5～9月	殺虫剤	アザミウマ	5	5
8月	殺虫剤	カイガラムシ	1	1
9月	殺虫剤	ハダニ	1	1
化学合成農薬成分数			19	16

② 肥料等

施用時期	肥料名	施用量 (kg/10a)	窒素成分量 (kg/10a)	うち 化学肥料分 (kg/10a)
3月	化成肥料	100	8	8
10月	化成肥料	75	12	12
化学窒素肥料施用量				20

○ 他県の慣行的使用量

県名	区分	農薬 (成分)	化学肥料 (N kg/10a)
和歌山県	露地	18	20
	施設	23	21
広島県	露地	20	25.0

## (1) レモン

## ① 農薬（成分数）

施用時期	種類	対象病害虫	使用成分数	うち 化学合成農薬
4～9月	除草剤	雑草	3	3
3月	殺虫剤	シャクトリムシ	1	1
3～6月	殺虫剤	カイガラムシ	3	0
5～8月	殺菌剤	黒点病	4	4
5～6月(開花期)	殺菌剤	灰色かび病	1	1
5～9月	殺虫剤	アザミウマ	5	5
8月	殺虫剤	カイガラムシ	1	1
9月	殺虫剤	ハダニ	1	1
化学合成農薬成分数			19	16

## ② 肥料等

施用時期	肥料名	施用量 (kg/10a)	窒素成分量 (kg/10a)	うち 化学肥料分 (kg/10a)
3月	化成肥料	100	8	8
10月	化成肥料	75	12	12
化学窒素肥料施用量				20

## ○ 他県の慣行的使用量

県名	区分	農薬 (成分)	化学肥料 (N kg/10a)
和歌山県	—	16	30
広島県	露地	16	43.0
	施設	25	60.0